

## 神秘のカルデラ湖

何だろう、これは！見た瞬間地球の神秘を感じた。まるでジェラシックパークの太古の昔にタイムスリップしたように思えた。周囲8kmの原生林に囲まれた円形状の標高500m前後の外輪山の中にあるカルデラ湖。それが倶多楽湖(くつたらこ)を見たときの印象であった。北海道は太平洋側の登別市に近くにある神秘に満ちたこの湖は、近年1900年から200年まで火山活動があったと考えられている。勿論その起源は約8万年から4万5千年前の期間に複数の火山で火砕流を伴う大規模な噴火を繰り返した成層火山体である。

この倶多楽湖に流入流出する川はなく、静かな湖面は水質・透明度ともに日本でもトップクラスである。ここの湖畔まで下りていくことが出来ても湖を一周する道路は無く全て深い原生林で覆われている。ただ一つ建物があるのは可愛いスワン型のサイクル貸しボート、遊覧船、釣りの受付場所となっている。水深20mまで見通せる透明度は魅力的で怖いような神秘さがある。



冬期になると湖面一面が凍結して白一色となる。この時期は湖畔までの観光道路は冬期通行止めとなるためその景観は全く見る事が出来ない。しかし私が倶多楽湖を見た「のぼりべつクマ牧場」の山頂からは遠くからではあるが見ることが出来る。このクマ牧場にはヒグマを放牧しているとともにアイヌ文化を体感することも出来、明治初期の生活様式を忠実に再現している。私にとっては北海道全てが神秘に満ちた国土であり魅力ある未開未開の地でもあるのだ。

撮影 2015年春

